様式３

令和６年度　学校関係者評価のまとめ

今年度の重点「まなびづくり」では、今日の授業の課題について、子どもが「どうしてだろう」と思わず考えたくなる問いを解決するために子ども同士が対話をしながら課題解決していく「協働の学び」に学校全体で同じ方向で取り組んでいる様子が伺える。特に今年度は、子どもたちへ提示する「問い」に磨きをかけるために、ラーニングコミュニティ（ＬＣ）を通して、同僚同士で学び合ったり、外部の専門的な指導者から指導を受ける研修体制を整え先生方同士で学び合ったりするなどしながら、よりよく生きるために学び続ける子どもを学校全体で育んでいこうという思いを胸に教職員が同じ方向で取り組んでいくことが、子どもたちの学びの充実につながっていると思う。

また、「なかまづくり」では、今年度、学年を越えた交流活動の充実に向けて、縦割り班で触れ合う交流活動や清掃活動、運動会での縦割り班種目、児童会まつりなどの異学年の交流活動によって、子ども同士で支え合いながら力を合わせて生き生きと取り組む姿がたくさん見られた。また、３年生の綿花の活動や４年生の川の活動や花の栽培活動、５年の赤ちゃん交流会など、地域の方と触れ合いながら自分たちの課題を解決していく様子も見られ、そのことは我々地域住民にとってもたいへん喜ばしいことであった。

一方で、子どもたちの学習の成果を保護者に伝わっていない様子もうかがえる。今後は、子どもの学びの成果を参観日や保護者懇談会等において、子どもが作ったマインドマップをもとに学びの姿を教職員が保護者へ伝えたり、学年あるいは学校だより、ホームページ等で学びの成果の様子を紹介したりするなどして、本校の「協働の学び」をご理解いただけるよう取り組みが望まれる。

また、令和８年度に学校再編を控えていることから、子どもも保護者も学校再編に向けて明るい見通しをもつことができるよう、学校再編について語り合う場や、東小や北小の子どもたちと交流する機会等をつくるなどして安心感をつくりだしてほしい。

校長先生から示された次年度への展望では、対話を基盤とした「協働の学び」を軸とした学びのさらなる定着に向けて教育活動全般で取り組んでいくことや、互いを認め、地域と関わる活動を大切にした探究の学びの推進、心を開いて主体的に学び合う集団づくりのさらなる充実を図る自己有用感の育成が示されている。それらが実現されれば、地域のよさを生かした、より豊かで楽しい学校教育活動となり、一人一人の子どもたちがより生き生きと活躍する姿が期待できる。

我々学校運営協議員も学校運営に関わる一員として、また地域住民の一員として、地域と学校の橋渡しができるよう精一杯取り組んでいきたい。

大町市立大町西小学校　学校運営協議会
会長　　平林　成夫